



## VOICE (特別版) 調査レポート

仙台市青葉区本町3丁目2-26  
株式会社 東日本リサーチセンター  
代表取締役 佐藤 彰男

### 「東日本大震災」に関する調査

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災されました皆様、ご関係者の方々には謹んでお見舞い申し上げます。被災地の皆様の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当社は、東北地域における地元の民間調査研究機関として、東北地域の復興に向けて、微力ながら尽力して参りたいと考えております。

さて、当社では、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、仙台市をはじめとした被災地におけるアンケート調査の実施を見合わせておりましたが、被災地での復旧状況および企業活動の再開等の状況に鑑み、今回の地震発生後初めて、被災地の一つである仙台市において「東日本大震災」に関する調査を実施しました。

このたび、その調査結果がまとまりましたので、ご案内申し上げます。今後の東北地域の復興に向けた参考資料にして頂ければ幸いです。

今後も、当社では地域に根ざした調査テーマについて、調査研究を続けて参りたいと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。

### 調査実施概要

#### 1. 調査対象および回収状況

調査対象者：仙台市中心部への来街者 宮城県に在住の方

回収状況：240 サンプル

< 回答者の内訳 : 性別・年代 >

	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	30	18	17	19	26	110
女性	36	26	21	28	19	130
合計	66	44	38	47	45	240

< 回答者の内訳 : 居住地 >

	合計
仙台市内	208
仙台市を除く宮城県内	32
合計	240

#### 2. 調査方法

街頭調査（調査員によるヒアリング）

#### 3. 調査実施期間

平成23年5月21日(土)

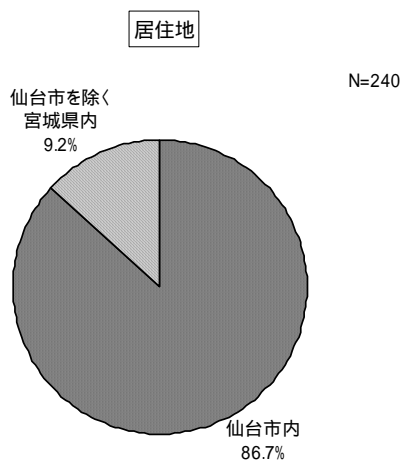
## < 回答者のプロフィール >

### 1. 性・年代

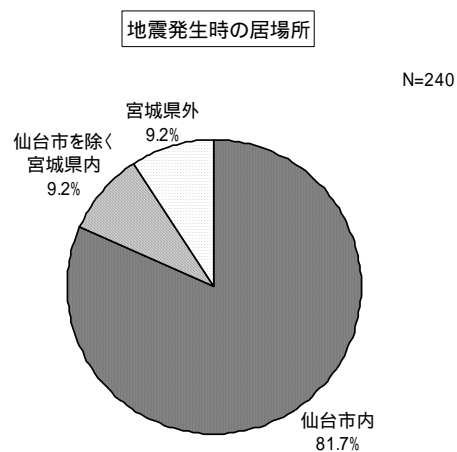
	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	30	18	17	19	26	110
女性	36	26	21	28	19	130
合計	66	44	38	47	45	240

(人)

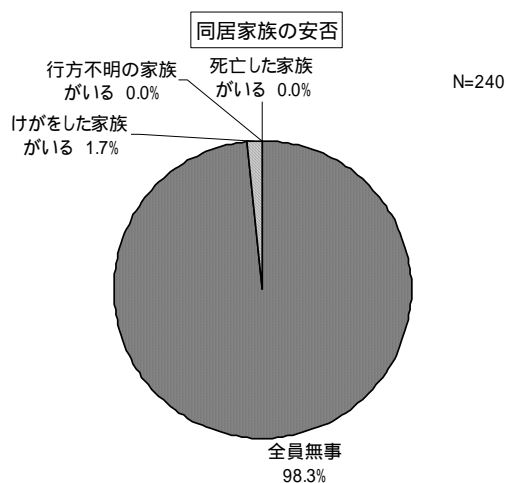
### 2. 居住地



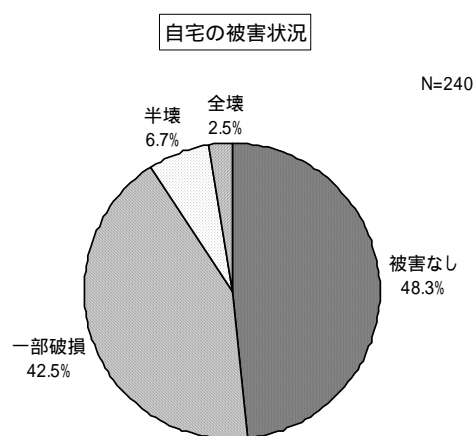
### 3. 地震発生時の居場所



### 4. 同居家族の安否



### 5. 自宅の被害状況



「被害なし」	「被害あり」
48.3%	51.7%

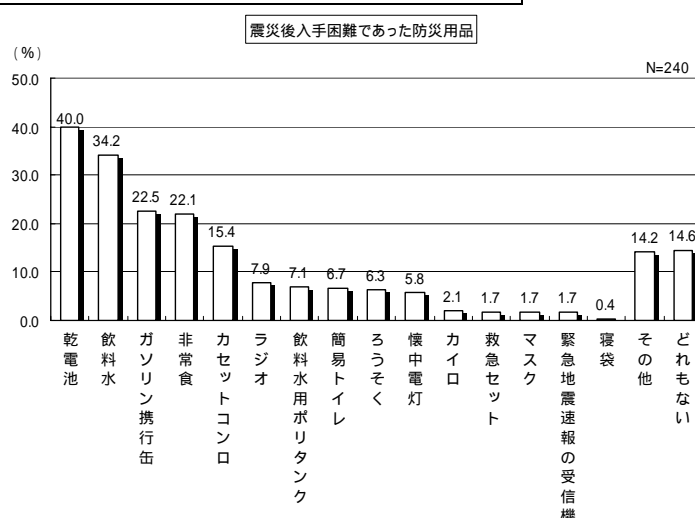
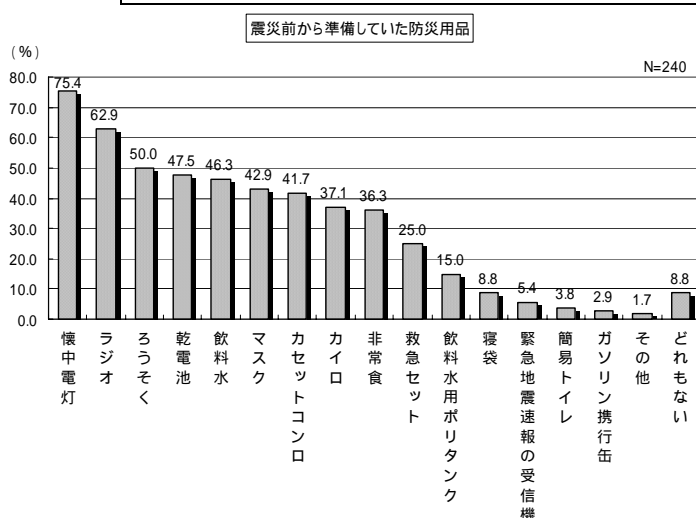
## < 調査結果 >

### 1. 震災前から準備していた防災用品、震災後入手困難であった防災用品（複数回答）

震災前から準備していた防災用品のベスト3は「懐中電灯」、「ラジオ」、「ろうそく」、  
震災後入手困難であった防災用品のベスト3は「乾電池」、「飲料水」、「ガソリン携行缶」

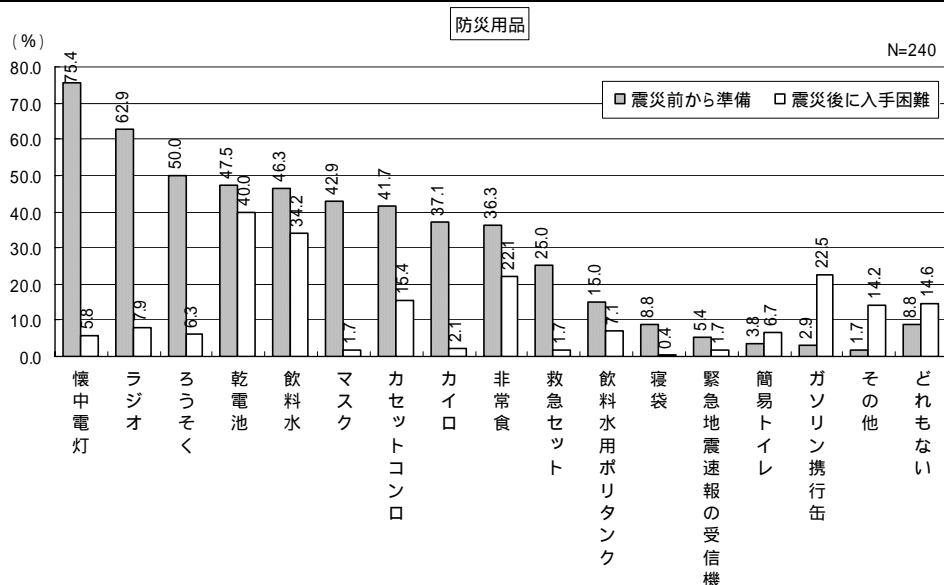
震災前から所有していた防災用品の上位3位は、第1位が「懐中電灯」で75.4%となっている。次いで、第2位が「ラジオ」で62.9%、第3位が「ろうそく」で50.0%となっている。

一方、震災後入手困難であった防災用品の上位3位は、第1位が「乾電池」(40.0%)、第2位が「飲料水」(34.2%)、第3位が「ガソリン携行缶」(22.5%)となっている。



### (参考) “震災前から準備していた防災用品”、“震災後入手困難であった防災用品”の比較

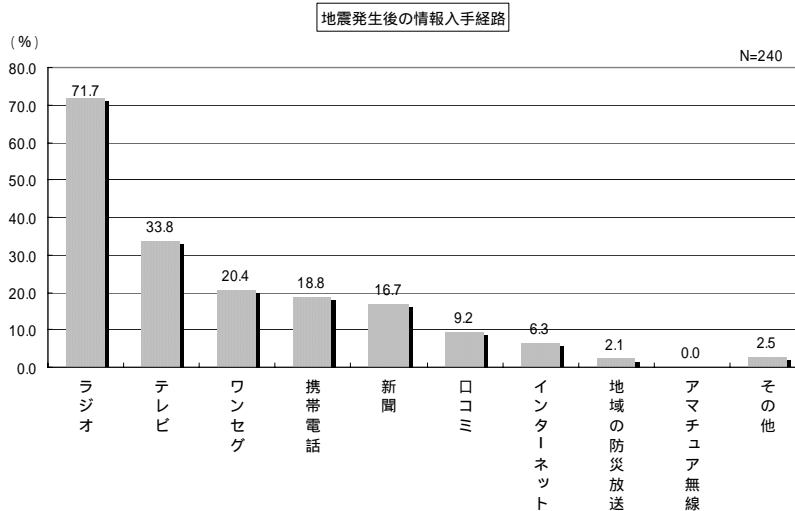
“震災前から準備していた防災用品”と“震災後入手困難であった防災用品”を比較すると、「ガソリン携行缶」や「簡易トイレ」は震災前に準備されておらず、震災後に入手困難となった様子がうかがえる。一方、「乾電池」や「飲料水」は、震災前に準備されていたが、震災後には入手困難であった様子がうかがえる。



## 2. 地震発生後の情報入手経路 (複数回答)

地震発生後の情報入手経路は、「ラジオ」(71.7%)が他を大きく引き離し、最も多い。

地震発生後の情報入手経路は、第1位が「ラジオ」で71.7%と、唯一7割を超え、他を大きく引き離している。次いで、第2位が「テレビ」で33.8%、第3位が「ワンセグ」で20.4%となっている。

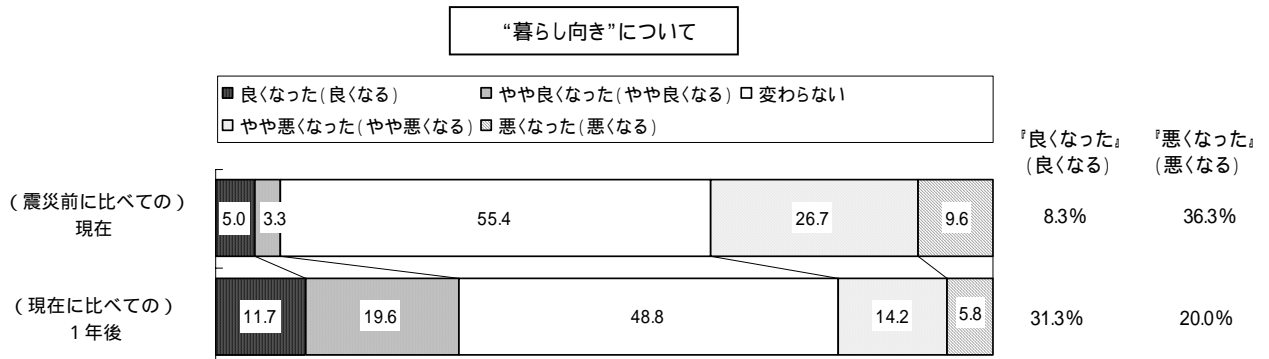


## 3. “現在の暮らし向き”と“1年後の暮らし向き”の見通し

“1年後の暮らし向き”の見通しは、現在に比べ『良くなる』(31.3%)が『悪くなる』(20.0%)を上回っている。

震災前に比べての“現在”の暮らし向きは、「良くなった」(5.0%)と、「やや良くなった」(3.3%)を合わせた『良くなった』が8.3%となっている。一方、「やや悪くなった」(26.7%)と、「悪くなった」(9.6%)を合わせた『悪くなった』が36.3%となっている。なお、「変わらない」は55.4%となっている。

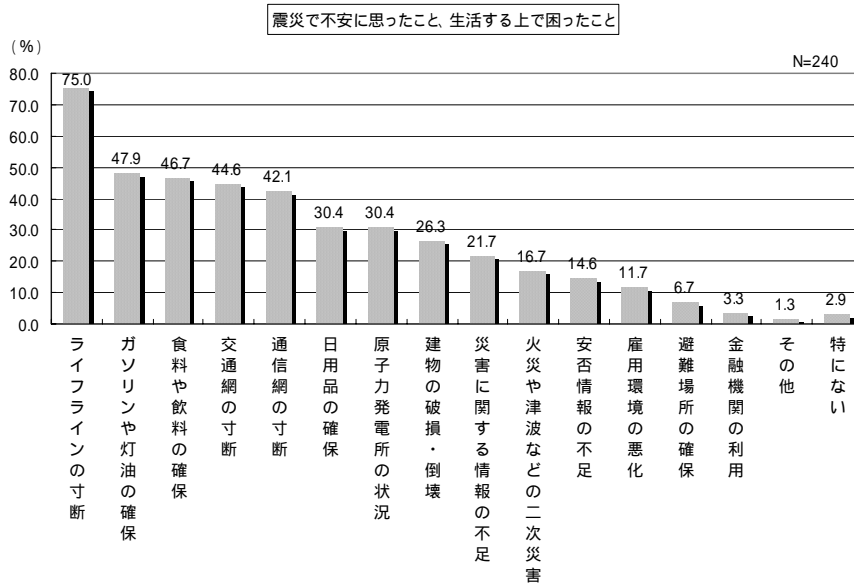
現在に比べての“1年後”の暮らし向きの見通しは、「良くなる」(11.7%)と、「やや良くなる」(19.6%)を合わせた『良くなる』が31.3%となっている。一方、「やや悪くなる」(14.2%)と、「悪くなる」(5.8%)を合わせた『悪くなる』が20.0%となっている。なお、「変わらない」は48.8%となっている。



## 4 . 震災で不安に思ったこと、生活する上で困ったこと

震災後に生活する上で困ったことの第1位は「ライフラインの寸断」(75.0%)で、他を大きく引き離す。

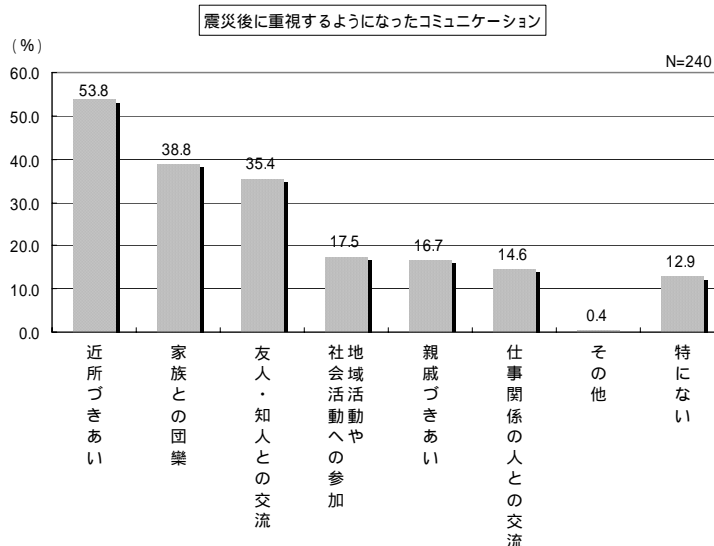
震災で不安に思ったことや生活する上で困ったことは、第1位が「ライフラインの寸断」で75.0%と、唯一7割を超え、他を大きく引き離している。次いで、第2位「ガソリンや灯油の確保」(47.9%)、第3位「食料や飲料の確保」(46.7%)、第4位「交通網の寸断」(44.6%)、第5位「通信網の寸断」(42.1%)が4割台で続いている。



## 5 . 震災後に重視するようになったコミュニケーション

震災後に重視するようになったコミュニケーションは「近所づきあい」(53.8%)を6割近くの方が挙げている。

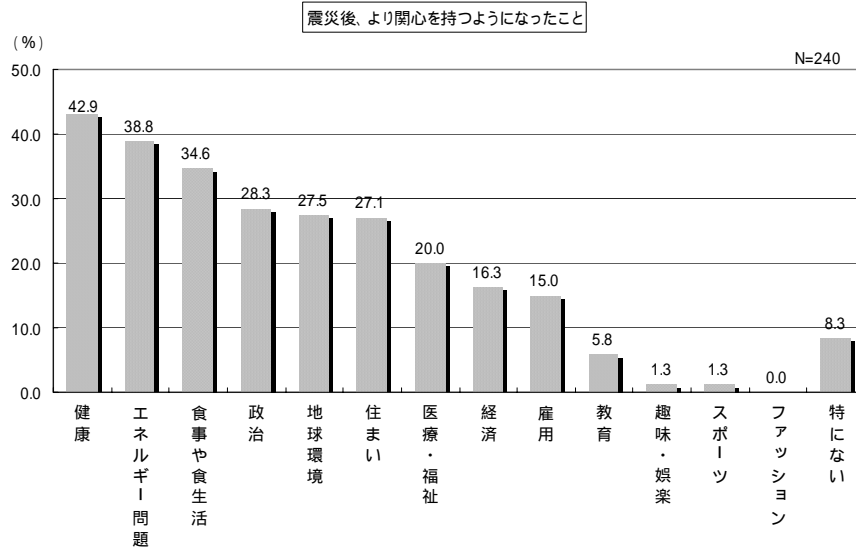
震災後に重視するようになったコミュニケーションは、第1位が「近所づきあい」で53.8%と、ほぼ6割に達し、他を引き離している。次いで、第2位「家族との団欒」(38.8%)、第3位「友人・知人との交流」(35.4%)が3割台で続いている。



## 6. 震災後、より関心を持つようになったこと

震災後、より関心を持つようになったことは、第1位が「健康」(42.9%)、第2位が「エネルギー問題」(38.8%)、第3位が「食事や食生活」(34.6%)となる。

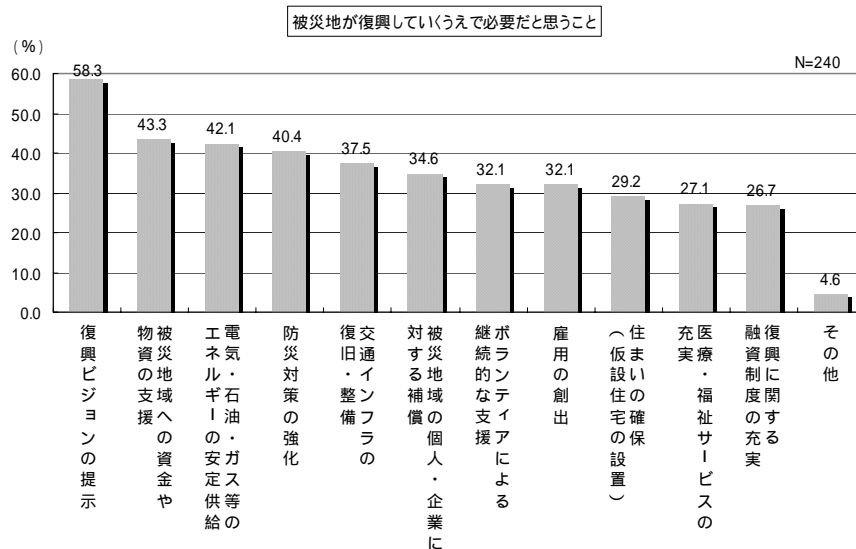
震災後、より関心を持つようになったことは、第1位が「健康」で42.9%となっている。次いで、第2位が「エネルギー問題」で38.8%、第3位が「食事や食生活」で34.6%などとなっている。



## 7. 被災地が復興していくうえで必要だと思うこと

被災地復興に必要であることとして、「復興ビジョンの提示」(58.3%)が6割近くの人に挙げられる。

被災地が復興していくうえで必要だと思うことは、第1位が「復興ビジョンの提示」で58.3%と、ほぼ6割に達し、他を引き離している。次いで、第2位「被災地域への資金や物資の支援」(43.3%)、第3位「電気・石油・ガス等のエネルギーの安定供給」(42.1%)、第4位「防災対策の強化」(40.4%)が4割台で続いている。

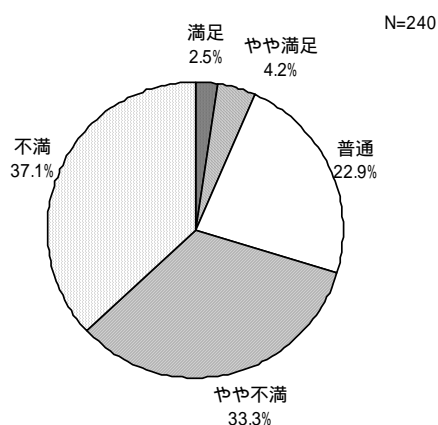


## 8 . 震災に対する政府の行動や対応への評価

震災に対する政府への評価は『不満』(70.4%)が『満足』(6.7%)を大きく上回る。

震災に対する政府の行動や対応への評価は、「やや不満」(33.3%)と、「不満」(37.1%)を合わせた『不満』が70.4%となっており、「満足」(2.5%)と、「やや満足」(4.2%)を合わせた『満足』(6.7%)を大きく上回っている。

震災に対する政府の行動や対応への評価



『満足』	『不満』
6.7%	70.4%

「お問合せ」

仙台市青葉区本町3丁目2-26 TEL 022(217)3021 FAX 022(217)3022

E-mail: [erc@erc\\_voice.co.jp](mailto:erc@erc_voice.co.jp) [http://www.erc\\_voice.co.jp/](http://www.erc_voice.co.jp/)

株式会社 東日本リサーチセンター 企画調査部 (担当: 佐藤 貴俊、百井 淳)

禁無断転載